

34 参照)

先生との出会いはもう20年位前になる。現在の兵庫
県立大学、当時を教える新しい分野から捉えた住居学の
そこの人間として間もな。また、学生色々と聞いて
理学や人間として間もな。また、学生色々と聞いて
研究者と任して住宅の子どもになった。最初の出会いは
来ず悩んで住宅の子どもになった。最初の出会いは学生
口イヤル住宅の子どもになった。最初の出会いは学生を
女子大学の様子を聞いた。また、学生色々と聞いて。初
大なるように。云う訳で最初の出会いは学生を通じての
動だった。社屋を新しくし、1階にギャラリーを併設
すこの状態であった。先生は絵も描かれると聞いて、
中模索の教授なら丁度いい、館長をお願いしよう、と軽
大い気持ちで、ずぶの素人の私が厚かましくお願いに行
ったのが縁になった。一見とっつきの悪い冷たい感
じがするが、根っこの部分では本当に温かい人だった。
私が曲がりなりにも文化の面でも知られるようになり、
私権威のある在野団体から文化功労賞をいただいたのも、
すべ先生のお蔭である。
文化芸術面はもとより、先生に生きる姿勢のような
ものを身近で教えていただいた。私は必ず盛大な物故
展を開催する。そして生前からのお約束の一つである
《池内美術館》を建立する。
《フィンランドへの回想》《メタモルフォーゼ》《リ
フレイン》《黄色いマヌカン》《誰かがよぎった》《鏡
の中の情景》《透過》《ショーウインドウ》《鏡映》
《レックウォーマー》数え上げたらきりがなし。どれ
もこれ先生の名作ばかりである。
悔いの残る寂しい別れだった……。